

美しく生きる

保内中学校
校長室だより第1号
平成30年5月7日
文責 鎌田 宏和

風薫る爽やかな季節となりました。大型連休が終わりましたが、子どもたちの様子は
どうでしょうか。体調面で変化の起こりやすい時期ですので、ご家庭でも見守っていた
だき、お気付きのことがありましたら、学級担任までご連絡ください。

生徒たちは、この5月に中間テスト（21日～25日）を控えており、じっくり落ち着
いて学びに向かうとともに、部活動（運動）では、総体（6月2日、3日）に向けて、
仲間とともに心身を更に鍛え、有意義な経験を重ねるものと期待しています。今後も継
続して、各ご家庭での励ましをよろしくお願いいたします。

保内中学校を誇れる学校に

さて、入学式（4月9日）と役員認証式（4月12日）で、昨年卒業した佐藤梨沙子
さんが開校式で言った次の言葉を生徒に紹介しました。

「両校の伝統を受け継ぎ、あいさつと感謝の気持ちを忘れず、私たちの手で、この保
内中学校を誇れる学校にしていきたいと思います。」

今年、新生保内中学校の2年目を全校生徒264名（1年生88名、2年生92名、3年
生84名）と教職員27名でスタートいたしました。八幡浜市の半分の面積を校区とし、
市内最多の生徒が通うこの保内中学校を保護者・地域の皆さんにとっても誇れる学校に
していけるよう、生徒・教職員が力を合わせて取り組んで参りますので、ご理解とお力
添えを賜りますようお願いいたします。

○ 学級別生徒数及び学級担任 ※ 学年横の（ ）は学年主任

学年 学級	1年（松前道晴）			2年（泉正人）			3年（矢野晴基）			1組	計
	A	B	C	A	B	C	A	B	C		
男	17	17	18	15	14	15	12	13	12	2	135
女	12	12	12	15	16	16	16	15	15	0	129
計	29	29	30	30	30	31	28	28	27	2	264
担任	今泉淳子	山村正美	浅野隆	寺岡崇史	前田綾	酒井奈美	上甲照子	菊池多恵	矢野晴基	宇都宮正之伸	
副担任	森分美幸、上田耕造、上田由記美			上田有希子、上田祐輝			大塚真理子、井上修				

よろしくお願ひします

ご挨拶が遅くなりましたが、鎌田宏和と申します。昭和59年4月の新規採用から9
年間、保内中学校に勤務させていただき、当時の生徒や保護者の皆様、また地域の方々
には大変お世話になりました。そのご恩に報いることができるよう、新生保内中学校の
ために一生懸命努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本通信では、生徒の様々な活動や姿を紹介することを通して、教育目標の「美しく生
きる～和を奏でる心～」について、皆様と一緒に考えて参りたいと思います。一年間ど
うぞよろしくお願ひします。

全員出席「11日」 ※5月2日現在

全校生徒が元気に出席している日が、5月2日までで11日を数えました。教職員一同、264名の靴が靴箱に揃っていることを喜び、ありがたさを噛みしめています。今年一年、一日でも多く全員出席の日が重ねられることを願っています。

学校教育目標について

今年度の学校教育目標を「美しく生きる～和を奏でる心～」としました。

この目標には、生徒の次のような「※美しく生きる姿」を育てたいという思いが込められています。（※校訓と関連づけ、○で表示しています。）

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 〈 校訓 〉 | 〈 生徒像 〉 |
| たたく | 互いに戒め合い、正義を求める生徒 |
| ○ 正邪を見定める澄んだまなざし | |
| ○ 信念に基づいて行動する揺るぎない態度 | |
| ○ 学びに励み、互いに競い高め合う向上心 | |
| やさしく | 互いに助け合い、思いやりのある生徒 |
| ○ 相手を敬い、自らの行動を常に省みる姿勢 | |
| ○ 互いに元気を送り合う明るいあいさつの励行 | |
| ○ 美しい郷土づくりと自らを役立てようとする姿勢 | |
| たくましく | 互いに励まし合い、忍耐力のある生徒 |
| ○ 弱音を吐かず、決めたことを最後までやり抜く態度 | |
| ○ なりふり構わず困難に立ち向かう姿 | |
| ○ 「百転一起」の精神 | |

生徒は、どのような姿（言葉や考え方、態度や行動等）に美しさを感じているのでしょうか。生徒一人一人には、日常生活の中でそれを追究してほしいし、私たち教職員は、その姿を見守り育てていきたいと思えます。

こんなことがありました

- 4月のある日の夕方、プールの裏で草刈りをしていたとき、部活動を終えて下校する一人の男子生徒が通りがけに私に声を掛けました。

「ご苦労様です。ありがとうございます。」

彼のさりげない気遣いの一言に、元気をもらいました。

- 誰も見ていない横断歩道で、きちんと自転車を降りて押して渡る生徒の姿がありました。

人が見ていようがいまいが、行いを変えない揺るぎない強さを見ました。

- 部活動の体力づくり（1年生対象）で、川沿いの周回走をした際、自分の限界と向き合い走り切ろうとする1年生の姿がありました。

そのとき、同じ周回走を全力で走っていた女子バスケットボール部員の1人が、

交通安全のために立っていた私に対し、前を通るたびに息を弾ませながら、「ありがとうございます」と声を掛けてくれました。

苦しい状況にもかかわらず、周囲に気を遣う健気さに心が温かくなりました。

拙い